

春風秋霜

5月号

令和5年5月22日
島田市教育委員会日より
教育長 山中史章

春風をもって人に接し、秋霜をもって自らを慎む 佐藤一斎

1 今年もツバメがやってきました

我が家には、この時期になるとツバメがやってきて巣を作ります。卵を産み育て、子どもが4羽とか5羽巣立っていきます。

昨年は、カラスに巣を狙われて、せっかく作った巣を壊されてしまいました。せっかく産んだ卵も、巣の外に落とされてしまい、全ての卵がかえることができませんでした。昨年のことを思い出しながら、今年はカラスに巣を壊されないように、十分注意して見守ってきました。インターネットで、ツバメの巣を守るための方法を勉強して、どうしたらカラスに襲われないかを調べたうえで対策を立てました。

弱い生き物は敵に狙われるとどうしようもありません。今年は、カラスが入れないように巣の近くにキュウリやヘチマを育てるときに使うネットを切ってカラス除けの防護ネットとして使用することにしました。写真のようにネットを垂らしているのですが、ツバメより大きなカラスが飛んでくると、羽や体がネットにふれるのを嫌がって、巣まで近づけないということです。近くまでカラスが来ている姿を見ましたが、巣を襲いに来るとはできないようです。



親が、卵を抱いていて巣の下に卵の殻が落ちていましたので、もうすぐツバメのひなが顔を出してくれると思います。今年は、何羽のひなが顔を出してくれるか楽しみです。

2 チャットGPTの話を聞いてきました

先日、関東教育長会があり研修会に参加してきました。その中で、今話題のチャットGPTの話を聞くことができました。「AIロボットは東大に入ることができるのか？」を、研究していた新井紀子先生が講師でしたので、楽しくお話を聞くことができました。また、大変興味深い情報を教えていただくことができました。コンピューターというと、計算や暗算は得意ですが、文章の文脈を自分で理解できないため、人間には簡単な文章でも、コンピューターにはうまく理解できないということです。人間のイメージでは、AIロボットは決して間違ったことはしない、論理的で理想的な人間のようなものだと思うのですが、決してそうではないということが理解できました。特に、人間のような意思を持つことはできないということです。

講義の中にチャットGPTの話が出てきましたが、AIは、自信を持って嘘をつくという話が特に興味深かったです。人間が、チャットGPTに質問をすると、専門家でないと判断できないような嘘が回答の中に入ってくるので、その活用については、十分に注意しないとイケないということです。

ところで、皆さんはチャットGPTを実際に使ったことがありますか。私は、実際にAIに感想文を書かせるところを見せてもらったのですが、とても素敵な感想文を書くのです。もし、子どもがチャットGPTを使って夏休みの感想文を書き、

それを提出しても、きっと良くできた文章としてそれを受け取ることになるだろうと思います。

私が、「教育長として〇〇大会に出席するので、参加者が感動するような挨拶文を書いて下さい。」とチャットGPTに依頼すれば、きっと素敵な挨拶文を創ってくれるのではないかと思います。ただ、自分で考える能力は、どんどん下がっていきだろうという気がします。

新井先生からは、チャットGPTは高校の時に勉強した数列を応用して、どのように対応するかを計算しているに過ぎないこと、なめらかな答えになるように解答を出しているの、その答えが正しいかどうかは、AIにとってはどうでもいいことだという事を教えていただきました。大人は、十分活用できますが、判断力や経験値が少ない子どもたちにチャットGPTを使わせることは、危険であるとおっしゃっていました。大人がその危険性を十分理解し、子どもたちが使う場合の注意事項をできるだけ早く作成し、島田市教育委員会として提示する必要性を感じました。島田市と学校と連携し、今後の活用について検討していきたいと思っています。

肘かけ椅子

「これからの社会に向けて」

学校教育課長

村田一史

久しぶりに『ニューシネマ・パラダイス』を見た。とても好きな映画である。音楽もいい。アカデミー賞等、数々受賞したイタリア映画の名作である。

この映画には、郷愁、夢、家族、友情、出会いと別れ…、様々なテーマが内在しており、見る人の年齢、境遇、心の在り様によって、見え方が変わってくる。

主人公の親友であり親代わりである映画技師の老人が、夢を求めて都会に出ていく主人公に、「自分の愛することを愛せ。帰ってくるな。手紙も書くな。」と、故郷から送り出すシーンがある。

これから社会に出ていく青年や子供には、自分に枠を設けることなく、夢に向かって、邁進してほしいとつくづく思う。置かれている立場や境遇、場所に拘わらず、まだ見ぬ自分、世界に向けて、障壁を越え、とことん挑戦してほしい。

一方、地方にとって人口減少、少子化、若者の流出は、切実な問題である。市内の年少人口（0歳～14歳）は、10年後には大規模校2校分減少することが予測される。これからの時代、どこにいても、課題解決力や創造力、表現力、コミュニケーション力などの「社会で生きて働く力」を身に付けることが、いよいよ必要となってきた。「自分は社会を変えられる」「自分にはできる」等の意識を持つことや、自己肯定感の高揚は、自らの人生を創り、社会を創る力になる。地域を、国を、世界を見る力になる。ふじのくに国際高校が進める国際バカロレア教育も、その一つだ。

市内小中学校も、地域の課題や身近な生活等をテーマに掲げた「探究的な学習」に小学校段階から取り組んでいく。地域を創り、愛する精神を培う。現在、その芽が、市内のあちこちの小中学校で吹き始めている。

新しい1年が始まった。周りの木々も、すごい勢いで若葉が茂り始めている。人も自然も、未来に向けて、その一歩を踏み出している。